

第62回卒業証書授与式挙行

コロナ禍以前の形が復活 全校生徒、保護者が体育館へ



第111号
発行
2024年
4月23日 (火)
上田西高 校
新聞委員 会
編集局
編集局長：田村さくら
新聞委員長：金井 茉優
大田すみれ
佐藤 雪路
小林 さら
レイアウト：田村さくら



卒業式に臨む卒業生一同

3月2日(日)に第62回卒業証書授与式が挙行され、269名の卒業生が高校過程を修了した。今年度は全校生徒が出席し、コロナ禍に入った平成31年度(令和元年度)以来5年ぶりのこととなった。コロナ禍で様々なことが制限された3年間を過ごした卒業生。制限なしで行うことができた高校生活最後の行事の様子を取材した。

(金井 茉優)

全校で門出を祝福

まだ冬の寒さが残り、春の訪れが待ちどおしい3月2日。3年生は上田西高校を旅立った。新型コロナウイルスの卒業式を挙行した。当日は多くの卒業生が



ステージ両脇には、西高生に向けて米津福祐氏から贈られた絵画が飾られた

マスクを外して式に参加する姿が見受けられた。また、国歌や校歌も声を出して歌えるようになり、コロナ禍以前の様子を取り戻し始めている。式典を担当した武田善和副校長は「マスクを外していた3年生の晴れやかで豊かな表情に惹きつけられた」と話す。また、「先輩達がどのように卒業していくのかという姿を在校生はしっかりと見ることができ、多くの刺激を得られた式になったのではないかと振り返った。

3年生の望々と胸を張る姿からそれぞれが過ごした高校3年間に誇りをもっている様子を感じた武田先生。最後に「1人1人が目標や夢へ向かい歩んで欲しい」と激励の言葉を贈った。



記念撮影する卒業生。中央上段は横山聖哉選手

卒業生、3年間の思い出語る

3年前の入学式のイントロビュで高校生活の目標を聞かれ、甲子園出場を目標に掲げていた元硬式野球部の田中広翔さん。「夢が叶い、最高の仲間と恵まれた最高の3年間だったと笑顔で語った。

元硬式テニス部の水出楓香さんは「3年生の中では唯一の女子部員だったのが楽しかった」と話し、最後の高校総体では一度も勝てたことがなかった相手に勝てたことを一番の思い出に挙げた。

特編クラスに所属していた中村柚月さんは「予餞会での在校生の3月9日の合唱がとても感動した」と感想を述べた。卒業後の進路については、「資格を取ることが目標に日々頑張りたい」と意気込んだ。

(大田すみれ)

理事長特別表彰に45名

令和5年度は、成績優秀者1名、陸上部1名、レスリング部3名、アーチェリー部1名、硬式野球部、軟式野球部、計45名が理事長特別表彰を受賞した。硬式野球部として表彰を受け、主将を務めた室賀八公貴さんは、名誉ある賞を受賞できたこと

また、体育館のステージ横には大きな2枚の絵画が飾られた。これは、上田市在住の画家米津福祐氏から江戸時代の天下無双力士で東御市出身の雷電為右衛門のイメージに西高生を合わせ、エールとして送られたものである。水野一成理事長は「力強いエネルギーと無骨な逞しさを感じる」



壇上で表彰を受けた代表者8名

卒業生担任団それぞれの思い

無事に卒業生を送り出した担任団に話を聞いた。3組担任の大塚雅也先生は、「母校で自分の高校時代と同じ3組の担任となり、自分が卒業して10年目の節目の年に卒業生を出した事はとても感慨深く不思議な気持ち」と話した。

学年主任で6組担任の白井道彦先生は「生徒や学年の先生に恵まれ、特にクラスマッチで優勝した時の胸上げが印象に残っている」と答えた。

令和5年度で退職す



初担任を終えた大塚先生

る4組担任の山口正樹先生は、上田西高校に37年間勤務した。沢山の思い出の中で特に印象に残っているのは、初担任を務めた時で、クラスの生徒のうち話を聞いてくれたのは2人しかいなかったことだという。「今回のクラスはよく話を聞いてくれた」と振り返った。

(小林 さくら)



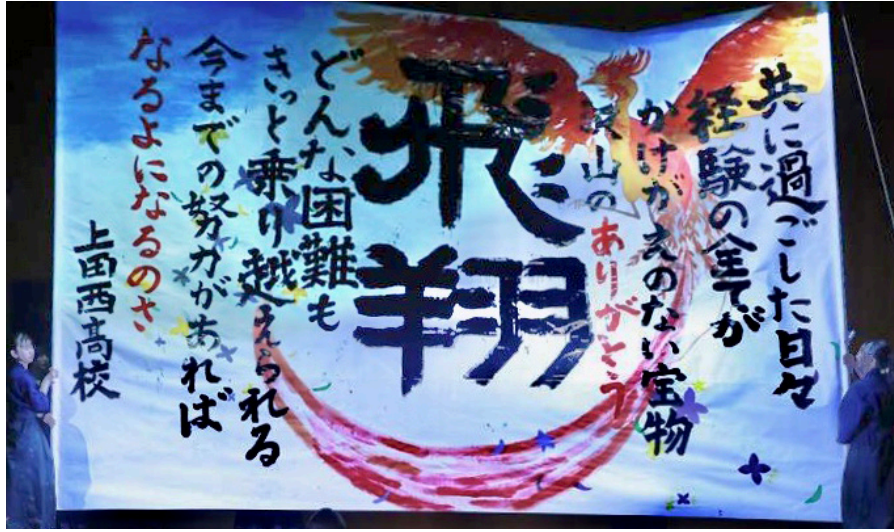
祝辞を読む水野理事長

と話した。迫力のあるこの絵画は、会場内で存在感を放ち、卒業生の門出を祝った。

(金井 茉優)

予餞会5年ぶりに全校が体育館へ 在校生、直接卒業を祝いこれまでの感謝を伝える

3月1日(金)に予餞会が行われた。昨年度は3年生だけが体育館に入り行われたが、今年度は全校が体育館に集まった。新旧生徒会役員による生徒会太鼓から始まり、抽選会や部活コラボパフォーマンス、人当りクイズなどの企画で盛り上がりを見せた。さらに、メッセージ動画や思い出が詰まった動画が流れ、体育館は感動の雰囲気包まれた。サプライズ企画も大成功し、全校生徒で3年生の卒業を祝った。
(金井 茉優)



書道部と美術部、吹奏楽部によるコラボパフォーマンスの様子

部活動コラボ、卒業生を激励

昨年度も行われた書道部・美術部・吹奏楽部によるコラボパフォーマンスに加え、今年度は男子サッカー部・硬式野球部・チアリーダー部から卒業生に向けてエールが送られた。

サッカー部による合唱から始まり、野球部の応援が続いた。サッカー部の応援団長である成田悠真さんは「卒業生から賞賛の声を貰い、いい形で送り出すことが出来てよかった」とその瞬間を振り返った。それぞれのパフォーマンスから始まり、吹奏楽部の演奏が続き、チアリーダー部が参加し、チアリーダー部はサッカー部の合唱に合わせていちから振りをつけ本番に臨んでいた。

続く書道部・美術部・吹奏楽部のコラボパフォーマンスは、昨年同様迫力に圧倒されるパフォーマンスであった。書道部部長の吉村以莉さんは「お世話になった卒業生への感謝とこれから先に待つ明るい未来をパフォーマンスを通して伝えたい」という思いを込めて作品を考えたと話した。どの部活も揃って「練習時間が少なかった」と話したものの、本番では息のあったパフォーマンスを披露した。力強い応援とパフォーマンスに鼓舞された卒業生も多いのではないかと。(金井 茉優)



3年生を鼓舞する硬式野球部

先輩から後輩へ 伝統を繋ぐ生徒会太鼓

新年度は2人の太鼓長「練習量ね納得のいく演奏目指す」

上田西高校生徒会の伝統である生徒会太鼓は旧役員から新役員へ受け継がれた。旧太鼓長の遠藤愛蘭さんは「初心者が多かったが想像を超える演奏で64期らしさを表現できた」と1年間の成長を実感した様子。

また太鼓長として先頭に立ちアドバイスをくれたこと、頑張りを認めてもらったことは太鼓を演奏する上での自信に繋がったという。

後輩の演奏については「これから太鼓を打ち続けて好きになって欲しい」、「常に向上心を持ち楽しく演奏をして欲しい」と期待を寄せた。

新太鼓長の竹森心美さんは「先生や先輩方また太鼓の指導をしてくださっている宮入さんのおかげで良い演奏を創り上げられた」と述べ、「もっと練習に励み、伝統的な太鼓をより良いものになりたい」と意気込んだ。

同じく太鼓長の三ツ井優さんは「土日の自主練習も行い納得のいく演奏を完成させた」と話し、「頼れる3年生がいなくなるがメリハリをつけていきたい」と前向きに未来を見据えた。

(大田すみれ)



新旧生徒会役員による生徒会太鼓

抽選会 在校生も参加し、企画盛り上げる

今年の抽選会は、卒業生ではなく、在校生が番号の書かれたボールを引いて、クラスと名簿番号から当選者を決めるという形で行われた。

当選者には、スターバックスのギフトカードや電気ポット、横山選手のサイン、1等にはティズニーシーのヘア

人だけが関わるのではなく、在校生も参加し楽しめることができて良かった。「番号を引いた人だけでなく、その周りの人も一緒に楽しめてよかった。などと話した。

会場全体が笑顔に溢れており、「全校が参加した今年度の抽選会は大きな盛り上がりを見せた。」

(小林 さくら)

保護者からの気持ちを手紙で

サプライズ企画の1つとして保護者から卒業生に向けて手紙が贈られた。この企画は卒業生には極秘で進められた。保護者が書いた手紙を生徒会役員が預かり、予餞会終了後に卒業生の手渡すよう教室が空いている隙に机の中に入れてきた。

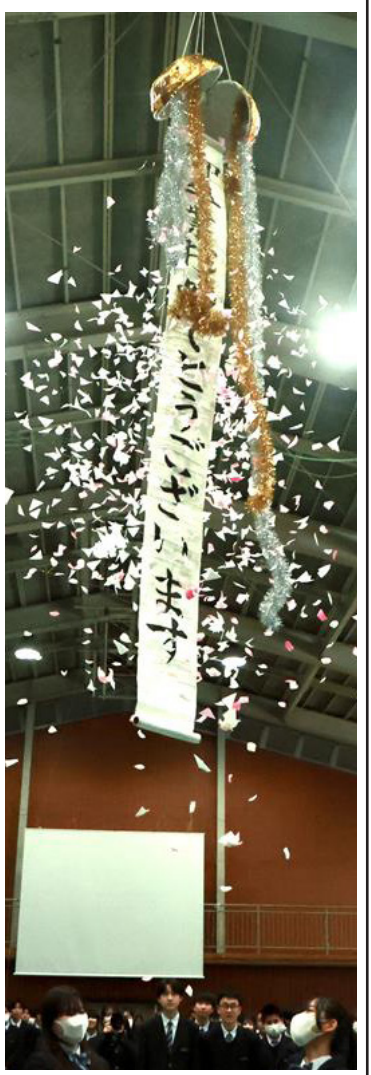
また、想いの伝え方は家庭によって違いため、家で直接手紙を手渡したという家庭もあったようだ。実際に手紙を受け取った水出楓香

さんは、「面と向かってだと照れ臭いけど、手紙を通じて3年間がんばったねと言ってもらえて嬉しかった」と嬉しそうに話した。普段伝えられない想いを手紙を通して伝えるいい機会になったはずだ。

(金井 茉優)



教室で手紙を受け取った卒業生



くす玉を割り卒業を祝う在校生

想いを込めたサプライズ

卒業生へのサプライズ企画としてビデオメッセージが届けられた。卒業生に驚いてほしいという思いからサプライズ企画を担当した副生徒会長の仲澤凛香さん。

サプライズ動画には先生方からのメッセージ動画も作成し「先生との思い出を振り返ることができる機会を設けられるよこたわり、メッセージが魅力的に見えるような工夫を重ね、生徒会役員にも意見をもらいながら作った」と振り返る。

そして、メインのサプライズ企画について旧生徒会長の横沢

「在校生全員が一つになった3月9日の合唱にとても感動した」という声も多数あり、サプライズは大成功となった。

(大田すみれ)



合唱する在校生